

景気テコ入れ策（２）

田中 修

はじめに

1-3月期のGDP発表を受け、李克強総理は4月16日国務院常務会議を開催し、1-3月期の経済情勢を分析・検討するとともに、2014年の経済体制改革深化の重点任務を手配実施し、「三農」発展への金融サービス措置を確定し、起業・就業を支援・促進する租税政策の延長・整備を決定した。4月2日の国務院常務会議に続く、景気テコ入れの第2弾であり、以下はその概要である（新華網北京電2014年4月16日）。

（１）経済の現状認識

今年1-3月期、わが国経済のスタートは平穏であった。経済成長率・雇用・物価等の主要経済指標は年度の予期目標の範囲にあり、上限・下限を超えてはいない。経済運営は引き続き合理的な区間を維持している。

経済構造には積極的な変化が現れ、サービス業の成長の勢いは減退せず、都市・農村住民の所得は比較的速い伸びを実現した。重点分野の改革は新たな進展を得て、発展のために新たな動力を注入した。

同時に、現在経済成長に下振れ圧力が以前存在し、一部の困難が低評価できないことを見ても取らねばならない。冷静さを維持し、奮発して成果を挙げ、進んで任務を担い、真剣に実務に励み、「政府活動報告」が確定した各任務を実施に移さなければならない。安定成長を統一的に企画し、改革促進・構造調整・民生優遇を堅持し、有効な供給増加に力を入れ、新規需要増を不断に満足させ、潜在リスクの防止・解消に注意を払い、多方面の共同努力を通じて、年間経済社会発展の予期目標・任務の達成を確保しなければならない。

（２）経済体制改革の深化

党18期3中全会精神に基づき、改革により政府活動の各方面、経済社会発展の各分野・各段階を貫徹し、各方面の積極要因を十分動員し、改革を全面的に秩序立てて協調的に推進しなければならない。

強烈な責任感と緊迫感をもって、民生の発展・改善における難題の打破にしっかり取り組み、重要分野・カギとなる部分で新たなブレークスルーを得るよう努力しなければならない。

（３）「三農」への金融支援

「政府活動報告」が提起した「三農」問題をしっかり解決することを全活動の重点中の重点とするという要求に基づき、金融の改革・イノベーションを推進し、「三農」発展に対する金融支援を強化することは、食糧安全保障、現代農業の建設、農民所得の増加、都市・農村格差の縮小にとって重要な意義を有する。

①農村金融サービスの主体を豊富にしなければならない

農村信用社等の金融機関改革を分類して推進し、村鎮銀行を育成・発展させ、民営資本の持株比率を引き上げ、農業産業投資ファンドの設立を奨励し、「三農」へのサービス能力を整理統合し拡大する。

②農業関連資金の投下を増やさなければならない

要求に適合した県域農村商業銀行・合作銀行に対して、預金準備率を適切に引き下げる。県域銀行に預金の一定比率を現地に投下させる政策を実施する。

③農村のインクルーシブな（普く恩恵が及ぶ）ファイナンスを発展させなければならない

貧困支援貸出補助政策を整備する。辺鄙な郷鎮を基礎的な金融サービスが100%カバーすることを推進する。

④現代農業発展の重点分野に対する貸出支援を増やさなければならない

農業保険の保険料補助政策を整備し、大災害のリスク分散メカニズムを確立する。

⑤農村金融市場を育成しなければならない

農業機械のファイナンスリースサービスを展開し、抵当・担保の方式を刷新し、農村財産権の取引市場を発展させる。

⑥政策支援を増やさなければならない

農業関連の貸付に対する財政奨励、農家への小額貸付に対する税制優遇、農村に対する貸付の損失補償等の政策を整備し、金融リスクを確実に防止する。

農業関連の金融機関は全て政策が深く行き渡るよう努力し、農業から離れることなく、農業に多く恩恵を及ぼさなければならない。

（４）雇用

雇用の維持は、安定成長の重要目的であり、民生優遇の基本内容である。大学等卒業生、一時帰休・失業者、障害者等重点対象者の起業・就業を更に促進するため、小型・零細企業の発展を支援する。

2013 年末に期限が到来した重点対象者の起業・就業を支援・促進する租税政策を 2016 年 12 月 31 日まで延長し、更に整備する。

①優遇政策を享受する業種・人員の範囲制限を取り消す

登記後 1 年以上失業している人員については全て税制優遇を与える。

②課税控除の上限を引き上げる

個人経営に従事し、あるいは企業が雇用を吸収した場合には、国家が予定税額を控除するほか、地方政府は規定に基づき過去に比べより大きい税制優遇を与えることができる。

③税・費用控除の種類を増やす

地方教育付加金を減税範囲に組み入れる。

④手続を簡素化する

税制優遇政策の管理を審査・許認可から届出制に改め、更に良好な起業・就業環境を作り上げるよう努力する。

（4 月 18 日記）